

惑星学基礎 III  
&  
惑星学基礎 III 演習

岩山隆寛

2016 年度版



# 目次

ガイダンス	vii
0.1 惑星学基礎 III	vii
0.2 合否判断	ix
0.3 惑星学基礎 III 演習	ix
0.4 合否判断	x
0.5 連絡先	x
0.6 その他	x
<b>第 1 章 定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法</b>	<b>1</b>
1.1 はじめに	1
1.2 言葉の定義	2
1.3 定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法 (1)	4
1.4 定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法 (2)	7
1.5 非斉次型の微分方程式の解法	8
1.6 最後に	14
<b>第 2 章 Fourier 級数</b>	<b>15</b>
2.1 周期関数	15
2.2 Fourier 級数	16
2.3 Fourier 係数の導出	16
2.4 Fourier 級数の例	18
2.5 Fourier 級数展開に関するいくつかの注意	21
2.6 Parseval の恒等式	23
<b>第 3 章 Fourier 級数の複素表現 (複素 Fourier 級数)</b>	<b>25</b>
3.1 実 Fourier 級数からの導出	25
3.2 いくつかの注意	27

3.3	複素 Fourier 級数の例 . . . . .	30
3.4	Fourier 級数の応用：関数を近似する . . . . .	31
第 4 章	Fourier 変換と Fourier 積分	33
4.1	復習 . . . . .	33
4.2	Fourier 変換 . . . . .	34
4.3	Fourier 積分 . . . . .	37
4.4	まとめ . . . . .	39
第 5 章	Fourier 級数 (Fourier 変換) の幾何学的意味～直交関数展開～	41
5.1	ベクトルの復習 . . . . .	41
5.2	Fourier 級数展開のココロ . . . . .	43
5.3	まとめ . . . . .	46
第 6 章	拡散方程式	49
6.1	拡散方程式の導出 . . . . .	49
6.2	拡散方程式の解法 . . . . .	51
6.3	Gauss 積分 . . . . .	55
6.4	複素関数の積分 . . . . .	57
6.5	(6.19) の別解 . . . . .	58
第 7 章	波動方程式	61
7.1	d'Alembert 解 . . . . .	61
7.2	変数分離法を用いた波動方程式の解法の例 . . . . .	63
7.3	コメント . . . . .	67
第 8 章	Laplace-Poisson 方程式とその周辺	69
8.1	はじめに . . . . .	69
8.2	曲線座標系での Laplacian . . . . .	70
8.3	Laplace 方程式と特殊関数 . . . . .	75
8.4	Green 関数 . . . . .	77
第 9 章	2 階の線形偏微分方程式の分類	81
9.1	はじめに . . . . .	81
9.2	特性曲線 . . . . .	81
9.3	座標変換 . . . . .	83

---

第 10 章	複素解析	87
10.1	複素数の復習 . . . . .	87
10.2	正則関数 . . . . .	88
10.3	Cauchy の積分定理 . . . . .	91
10.4	級数展開の復習 . . . . .	93
10.5	留数 . . . . .	95
10.6	Laurent 展開に基づく留数の求め方 . . . . .	95
10.7	留数定理 . . . . .	98
10.8	複素関数積分に基づく実数関数積分 . . . . .	99
第 11 章	Laplace 変換	103
11.1	定義 . . . . .	103
11.2	Laplace 変換の幾つかの例 . . . . .	105
11.3	Laplace 変換を用いた微分方程式の解法 ~例題~ . . . . .	105
第 12 章	熱力学の数学	107
12.1	状態方程式 . . . . .	107
12.2	Jacobian . . . . .	109
第 13 章	和の規約	111
13.1	表記 . . . . .	111
13.2	和の規約 . . . . .	112
13.3	Kronecker のデルタ . . . . .	113
13.4	Eddington のイプシロン . . . . .	114
13.5	和の規約を使ったベクトル解析の公式の証明の例 . . . . .	115



# ガイダンス

## 0.1 惑星学基礎 III

### 0.1.1 講義内容

本講義の目的は、惑星学<sup>\*1</sup>の勉強や研究において必要な数学を解説することである。同じ目的の講義として、1年次に開講されている惑星学基礎 I & 演習および惑星科学基礎 II & 演習がある。本講義はその後行科目である。<sup>\*2</sup>

自然科学の大きな特徴の一つは、現象の未来を定量的に予測することができる点であろう。自然現象を支配している法則を、微分方程式の形に書き下し、それを解くことによって、現象の未来が予測できるのである。そこで、微分方程式を解くことが重要になってくる。振り子の運動や天体の運動は時間に関する微分を含んだ常微分方程式で書かれる (所謂 Newton の運動方程式)。常微分方程式の解法については既に惑星学基礎 I で学んでいる。一方、惑星学では、空間的に広がった物理量 (たとえば、気圧の空間分布、温度の空間分布など) も研究の対象にする。その発展を記述する方程式は時間微分と空間微分の両方を含んだ微分方程式、偏微分方程式、の形で書かれる。本講義の目的は、偏微分方程式を解く手法や、それに関連する数理物理的な話題を中心に解説することである。

まず、既に惑星学基礎 I で習ったが 常微分方程式の解法 を復習をしておく。偏微分方程式を解くためには、変数分離や直交関数展開 (本講義の主題の一つである Fourier 級数・Fourier 変換を一般化した概念) などを行うことにより偏微分方程式を常微分方程式に書き直し、それを解くという方法が一般的である。したがって偏微分方程式を解く場合にも、常微分方程式の解法を知っておく必要がある。

次に、偏微分方程式の解法やデータ解析に用いられる Fourier 級数, Fourier 変換, およびそれらに関連するテーマ について詳述する。

---

<sup>\*1</sup> 惑星学という学問は確立されていないが、本学科で開講されている授業科目全般や本学科の教員、本専攻の大学院生が行っている研究を指すものと解釈してほしい

<sup>\*2</sup> 惑星学基礎 I ~ III は、(神戸大学に限らず) 物理学科で「物理数学」という名前で開講される授業科目に相当する。

偏微分方程式には様々なタイプの方程式があるが、本講義で対象とする偏微分方程式は、拡散方程式、波動方程式、Laplace-Poisson 方程式 である。

複素数を変数とする関数の微分、積分（複素関数論）についても取り扱う。偏微分方程式を解く際に現れる積分にこれが利用できる。

また、和の規約 もしくは Einstein's notation と呼ばれる表記法も紹介する。和の規約は気象学や地震学（およびその基礎である流体力学、弾性体力学）で用いられるものである。和の規約を用いることの利点は、これを用いると、ベクトル解析で現れる複雑な計算がたちどころに行えることである。さらにスカラーでもベクトルでもない量（テンソル量）の導入に必要不可欠なものである。

本講義の内容は、理論的研究、実験的研究といった研究手法に係わらず、将来物理系の研究分野で研究を行う上で必要不可欠なものであり、常識として知っておく必要がある。また、本講義で取り扱う内容は「基礎科目」の一部として各大学の大学院入学試験において頻繁に出題される。

## 0.1.2 参考書

本講義に関連する内容を含んだ参考書をリストアップしておく。

- 程度は高いが、大学生としては是非一度は手にとって眺めて欲しい書籍。
  - R. Courant and D. Hilbert: Method of Mathematical Physics, vol. I. Wiley, 1953. (Fourier 級数の話は chapter II. 邦訳: 数理物理学の方法, 東京図書出版)
  - A. Sommerfeld: Partial Differential Equation. Academic Press, 1949. (Fourier 級数の話は chapter I, 邦訳: 物理数学, 講談社)
  - 高木貞治: 解析概論. 岩波書店, 1983, (Fourier 級数の話は第 6 章).
  - 寺澤寛一: 自然科学のための数学概論 [増訂版], 岩波書店, 1983.
  - ポントリャーギン: 常微分方程式, 共立出版
- 初学者向け参考書
  - 和達三樹: 物理のための数学, 岩波書店.
  - 小暮陽三: なっとくするフーリエ変換, 講談社.
- 一般的程度の参考書 (微分方程式)
  - 矢野健太郎: 微分方程式, 裳華房
  - 矢野健太郎: 大学演習 微分方程式, 裳華房

上記の 2 冊は、私が大学生のときに物理数学 I (1 年次, 通年開講) 担当の先生がテキストとして指定した本である。(物理数学のテキストは、この本以外に安達忠次著: ベクトル解析 (培風館) であった.)



- 一般的程度の参考書 (Fourier-Laplace 解析, 複素関数論)
  - 木村英紀, Fourier-Laplace 解析. 岩波講座「応用数学」, 岩波書店, 1999 年, 第 1 章.
  - 矢野健太郎, 石原繁, 解析学概論 (新版). 裳華房, 1982 年, 第 IV 部.  
上記の教科書は, 私が大学生のときに物理数学 II (2 年次, 通年開講) 担当の先生がテキストとして指定した本である.
- 一般的程度の参考書 (物理数学全般)
  - マージナウ, マーフィ共著, 佐藤次彦, 国宗真 共訳: 物理と化学のための数学 I, II, 共立出版 上記の 2 冊は, 私が大学生時代に愛読した物理数学の本である. 熱力学の数学から, 微分方程式, 特殊関数, テンソル解析, 量子力学や統計力学の数学, 数値計算法まで収録した大著である. 下記の本も演習書であるが非常に便利で今もお世話になっている本である.
  - M. R. Spiegel, Advanced Calculus.Schaum's outline series, McGraw-Hill, 1962, 384 pp.

## 0.2 合否判断

- 授業の合否判断は, 試験の点 (演習の時間に黒板で解いた問題数に応じて点数を加味する) で行う. 出席点は加味しない (出席はとらない).

注意: 惑星学基礎 III の講義の内容は惑星学基礎 III 演習で出題される問題を解くことにより, 理解が深まるので, 講義と演習の授業を両方履修することを強く勧める.

## 0.3 惑星学基礎 III 演習

### 0.3.1 方針

- 惑星学基礎 III で取り扱ったテーマに関連する演習問題を解くことによって, 講義への理解を深める. とくに数式を取り扱う能力を高める.
- 演習問題は, 適当な分量の問題を (予定では) 隔週毎に用意する.
- 受講生は配られた演習問題をその場で, もしくは翌週までに解いてくる. 希望者が黒板に問題, 及び模範解答を示し, 模範解答の解説をする. 教員は必要に応じてそれに対して補足説明を行う. これは人前で喋るプレゼンテーションの練習になる. なお, 解答者を教員側から指名することは原則として行わない. あくまでも学生が自主的に黒板に出て模範解答を示し, 解説を行うこと. 演習の授業は学生が主体と

なって作って行くべきものと考えている。

## 0.4 合否判断

- 授業の合否判断は、講義の際に行ったテストの点数に黒板で解いた問題数に応じて点数を加味し判断する。出席点は加味しない（出席はとらない。）

## 0.5 連絡先

質問は授業時間に限らずいつでも受け付ける。連絡先は以下のとおりである。

- 電子メール: [iwayama@kobe-u.ac.jp](mailto:iwayama@kobe-u.ac.jp) ; 居室: 自然科学総合研究棟 3 号館西棟 502 号室

本講義の内容をテキスト形式にまとめた資料（講義ノート）を岩山のホームページ

[http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach\\_16.html](http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach_16.html)

からダウンロードできるようにしておく。講義ノートは順次上記ページにアップロードする予定である。なお、昨年度の講義のノートは

[http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach\\_15.html](http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach_15.html)

に掲載してある。

## 0.6 その他

毎年行っている授業評価アンケートによると、ここ数年の本講義、演習の改善点としては

- i) よく喋りながら板書されているので、書いてから考えて理解出来る自分にとっては、実際の速度以上に速く感じました。一度立ち止まって考える時間があれば、もう少し全体的に理解出来ると思います。
- ii) 授業はとても有意義であった。だが、板書が速く、字が少し小さかったので写しにくかったところがありました。
- iii) 丁寧な解説でとても良いのですが、全体的なスピードが遅いように感じました。（全コンテンツおわらないのでは？）あと基礎 III 演習が教職科目とかぶっているのがとても迷惑。

- iv) 板書のスピードはちょうど良かったです。前回の復習を授業はじめにやってくれるのはとてもありがたい。
- v) 添え字が小さくて見えにくかった。
- vi) 問題を解答するのが早い者勝ちなので、授業時間中忙しいのが大変だった。予約制にすればよいと思う。
- vii) たのしかった。
- viii) 最後の授業で答がほしい。

といったものがあげられている。i), - iv) については相反する意見なのでどう対応しているか悩んでいます。速いと感じる人は、講義ノートを参考に板書を写す量を減らして講義についてきて欲しい。遅いと感じる人は、講義よりもさらに高度な内容を各自で自習するなど、上のレベルを目指して欲しい。v) については気をつけるつもりであるが、それでも見にくいときには、講義の進行にかかわらず遠慮なく指摘して欲しい。viii) については、解答があるとそれで安心してしまい自力で問題を解かなくなるでしょう。自力で問題を解くための教育的な配慮から、演習問題の解答を公開していない。もし自分で解いた解答を見て欲しい場合には遠慮なく申し出て欲しい。そのような積極的な授業への参加を大歓迎します。